

misa

Miyagi Information Service Industry Association
県内企業・情報サービス業のコミュニケーション情報誌

2010.9
September
No. **28**



仙台七夕まつり 撮影:(株)データウエイ・システムズ 代表取締役 我妻 宏道

CONTENTS

- 02 MISA 第16回 通常総会 会長挨拶
- 03 MISA 第16回 通常総会 来賓ご挨拶
- 04 MISA 第16回 通常総会開催報告
- 05 平成22年度 MISA役員名簿
- 05 MISAの主な行事予定(8月以降)
- 06 第16回通常総会記念講演会要旨
地球温暖化の裏表(CO₂削減に関わる交渉の話題から)
- 10 地域貢献事業のお知らせ
- 11 緊急雇用創出事業への取り組み
- 12 東北ITソリューションEXPO 2010
出展者募集
- 13 第2回 Misaliy女性交流会
- 14 平成22年度 第1回MISA会長杯
フットサル大会の開催
- 14 MISAカレイ釣り大会in大型漁礁(2010夏)
- 16 新入会員紹介・編集後記

■発行／社団法人 宮城県情報サービス産業協会
仙台市青葉区上杉一丁目7-7-903
TEL 022 (217) 3023 FAX 022 (217) 3055
e-mail:misa@misa.or.jp
■URL／<http://www.misa.or.jp>

■企画・編集／企画・広報委員会
■印刷／ハリウ コミュニケーションズ株式会社

MISA 第16回通常総会 会長挨拶

社団法人 宮城県情報サービス産業協会 会長 石塚 卓美



第16回総会開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。
本日は、なにかとお忙しい中、御来賓の皆様をはじめ、多くの会員の皆様に総会にご出席いただきまして誠に有難うございます。

また、平素は当協会の活動に対しまして、格別なるご協力・ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

本日の総会は「平成21年度の事業実施結果及び収支決算結果」についてのご審議であります。何卒宜しく願ひいたします。

さて、最近の経済情勢であります、長引く不況がやっと底を打ち、景気回復に向かい始めた矢先にギリシャの財政危機や政治の不安定等が起こりまして、先行きがまた不透明な状況になってしまいました。日銀の発表では景気は回復傾向にあるとしておりまして、全体的には回復基調にあるのかなという感じがしております。

そういうなか、IT投資につきましては企業ユーザーさんが企業収益の減少などから依然抑制傾向にありまして、我々地域ベンダーにとりましては依然として厳しい経営環境が続いております。

しかしながら、我が国の経済の再生には、ITを核とする構造改革と生産性向上が不可欠でありますし、また厳しい状況にある地域経済の活性化においてもITの利活用に大きな期待がされております。

私共地域の情報サービス産業としても、当業界が重要な一翼を担っていることをよく認識し、その使命を着実に果たしていくことが必要であります。

そして、このような使命に的確に対応していくためには「個々の企業単位では対応できない諸課題に個別の企業

の枠を超え結束して取組んでいく」ことがますます重要であります。

このようなことを踏まえ、宮城県情報サービス産業協会の今年度の活動計画につきましては、すでにこの3月の総会でご承認をいただいておりますが、より実行が上がるよう効果的な事業運営に努めてまいりたいと思います。

会員の皆様には、積極的に委員会に参加して頂きまして、全員参加型で様々な課題に取り組むことを通しまして、協会に加入するメリットを味わって頂きたいと思っておりますので、参加の程よろしく願ひいたします。

平成22年度も、皆様共々、活力ある宮城県情報サービス産業界の発展とITの利活用によります地域経済の活性化に貢献して参りたいと考えておりますので、皆様方からの一層のご理解・ご協力をよろしく願ひ申し上げます。

本日は、この本総会終了後に、社団法人日本経済団体連合会、21世紀政策研究所 研究主幹の澤様から「地球温暖化問題の裏表」と題しまして記念講演をいただくこととしております。

今、世界的に環境問題対策が注目されているところであり大変興味のあるお話ではないかと期待しているところでございます。澤様には大変お忙しい中、誠にありがとうございます。どうかよろしく願ひ申し上げます。

最後になりましたが、厳しい景況の中ではありますが、春遠からずの感もあります。会員各社さんがこの苦しい時期を乗り越え、ますますのご発展されることをご祈念申し上げます。開会にあたっての挨拶といたします。

本日はよろしく願ひいたします。



MISA 第16回通常総会 来賓ご挨拶

宮城県企画部 次長 上仮屋 尚 氏



貴協会におかれましては日頃から情報産業の振興を始め、高度情報化の推進に各別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、石塚会長様には、富県宮城推進会議メンバーとして貴重なご意見・ご提言を賜り改めまして県を代表し御礼申し上げます。

さて、宮城県では情報サービス産業の振興をきわめて重要な施策として位置づけ取組みさせていただいております。

平成18年11月、皆様からご協力いただきながら策定いたしました情報産業振興戦略につきまして、その期間を2年間延長し進めてまいりましたが、本年度が最終年度となりみやぎ発展税を活用しながら、しっかりと取組んでまいりたいと考えております。

具体的には、本日資料を配布させていただいておりますが本年度は「IT商品トライアル導入促進事業」を新設をいたしまして、IT企業の皆さんの新商品を「みやぎ認定IT商品」という形で応援する機会を提供し、認定商品については3年間PRにそのお墨付きをお使いいただけるものとし、商品信用力の増大に繋げていく取組みにも積極的に関わっていくこととしております。また、それらの商品をお客様に導入する場合、そのイニシャルコストについて年額500万円を限度に2分の1を支援する等皆様の声を踏まえ、きめ細かい支援策をトータルパッケージのような形で県としても取組んでまいりたいと思っております。

で県としても取組んでまいりたいと思っております。

来年度からは、新たな振興戦略となりますが、IT全体の普及・促進についての新しい方向性や具体的な取組むべき必要事業等について、これから本格的に検討に入ることとしております。貴協会及び協会会員企業の皆様から、前回の戦略策定の時同様、取り組むべき事業についてのご意見・ご提言を賜り、財政状況は厳しい中にごさいますが可能な限りしっかりした計画を作ってまいりたいと思っておりますのでよろしく願ひいたします。

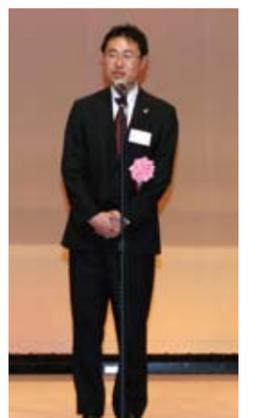
貴協会におかれましては、これまでも産学共同実践的IT教育研修事業、あるいは東北テクノロジーセンター等との連携による人材育成、さらには「IT業界次世代人材育成事業」等多々大変なご尽力をされていると伺っております。

昨今、経済情勢は、先程の会長のお話にもございましたように大変厳しい状況にございますが、今後とも企業間はもちろんですが産学官の連携による事業の創出、事業開拓の促進や人材育成、さらには業務獲得支援にお取組みいただくことにより、県内経済の活性化にご貢献いただきますよう、県を代表し願ひ申し上げます。

最後になりましたが、社団法人宮城県情報サービス産業協会のますますのご発展と本日ご出席の皆様のご健勝を心より祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶
東北経済産業局 地域経済部
寺家 克昌 部長



来賓ご挨拶
仙台市経済局
渡邊 晃 局長

第16回 通常総会開催報告

去る6月8日（火）午後1時50分より社団法人宮城県情報サービス産業協会の第16回通常総会が仙台市「パレスへいあん」において開催されました。

総会は石塚会長の開会挨拶、宮城県企画部次長の上仮屋尚氏よりの来賓挨拶に引き続き議事に入りました。

付議事項は平成21年度事業報告および決算報告並びに監査報告、一般社団法人への移行認可申請、役員異動に関するもので、いずれも提案通り承認されました。

役員異動では、多田雅行理事、藤本章理事、宮城光信理事、若木正理事、伊藤忠男監事が退任され、新たに内田龍男氏、小野寺満明氏、菅野繁氏、渡辺章氏の各氏が理事に、櫻井光延が監事に選任され、引き続き会長は石塚理事にお願いすることとなりました。（平成22年度の役員名簿参照）

通常総会に引き続き、現在世界的に注目されている環境問題対策について、21世紀政策研究所研究主幹の澤昭裕氏による、IT活用を含めた「地球温暖化問題の裏表」と題する講演会が開催されました。（講演会要旨一部別掲記事参照）

その後の交流会は澤講師にも出席いただき、180名に及ぶ出席者のもとで、荒井副会長の開会挨拶、東北経済産業局地域経済部の寺家克昌部長、仙台市経済局の渡辺見局長からのご来賓挨拶、菅野事業共創委員会委員長による乾杯の発声に引続いて懇談に入り、午後6半過ぎ、小野寺新理事の御開きの辞を以ってすべての行事を無事終了しました



平成22年度 MISA役員名簿

(敬称略 各五十音順)

	氏名	所属・役職		氏名	所属・役職
会長	石塚卓美	東北インフォメーション・システムズ(株) 取締役社長		菅野直	パイスリープロジェクト(株) 代表取締役
副会長	荒井秀和	(株)サイエンティア 取締役社長		小林隆	(株)ラネックス 代表取締役 会長
	大槻文郎	(財)みやぎ産業振興機構 理事	理事	佐藤廣嗣	宮城県企画部長
常務理事	穴沢芳郎	(社)宮城県情報サービス産業協会 事務局長		白鳥則郎	東北大学電気通信研究所 客員教授 名誉教授
理事	稲葉輝雄	(株)東北システムズ・サポート 代表取締役社長		富樫敦	宮城大学事業構想学部教授
	内田龍男 (新任)	仙台高等専門学校校長		渡辺晃 (新任)	仙台市経済局長
	小野寺満明 (新任)	(株)システムロード代表取締役	監事	大野裕	宮城県中小企業団体中央会 専務理事
	菅野繁 (新任)	(社)みやぎ工業会 専務理事		櫻井光延 (新任)	(株)仙台ソフトウェアセンター 常務監査役

MISAの主な行事予定 (8月以降)

【企画・広報委員会】

- ・情報誌発行(第28号、第29号) 9月、3月
- ・東北ITソリューションEXPO2010開催 11月11~12日
- ・賀詞交歓会・講演会 1月
- ・第17回総会 3月
- ・委員会間調整会議 8月、11月、2月

【経営委員会】

- ・経営者層研修会 11月、2月
- ・資格習得支援セミナー 11月
- ・経営者層情報交換会(MISA交流サロン) 9月、11月、3月
- ・ワークライフバランスセミナー 10月
- ・親睦ゴルフ大会 10月

【人財確保推進委員会】

- ・会社合同就職説明会 11月
- ・産学共同実践的IT教育事業 8月~3月
- ・ASISTコンソーシアム委員会 随時
- ・産学人材育成パートナーシップ事業 ~3月
- ・長期インターシップ事業 随時

【人財育成委員会】

- ・中堅社員向け研修会 9月、11月
- ・技術向上セミナー 10月
- ・若手交流会 10月
- ・視察研修 11月

【福利厚生委員会】

- ・BtoB交流会 10月
- ・同好会(フットサル・釣り) 11月
- ・ヘルスケアセミナー 12月

【事業共創委員会】

- ・企業情報データベース活用検討会 随時
- ・異業種交流会への参画(フロンテス21) 随時
- ・富県宮城推進会議幹事会 随時

- 【共通】・次期中期計画策定 ~12月 ・新公益法人対応(一般社団法人移行) ~12月 ・IT業界次世代人材育成事業 ~3月

第16回通常総会記念講演会要旨

地球温暖化の裏表 (CO₂削減に関わる交渉の話題から)

社団法人 日本経済団体連合会
21世紀政策研究所

研究主幹 澤 昭裕 様



温暖化が進んでいるという人たちが共有しようとしている長期目標が「全世界で2050年までのCO₂半減」ですが、これまでCO₂を出してきた歴史的な責任はどこにあるかという、もちろん産業革命以降ずっと化石燃料を使い続けてきたアメリカやEUだったりするわけです。

日本はどうかというと、結構出しているイメージがありますが第二次世界大戦以降ですから、産業革命より100年ぐらい遅れており、その累積量は実はたいしたことなく4%程度です。中国の方が途上国かと思ったら、これまでの累積としては日本よりもっと出していて7%程度となっています。更に、最近すごい勢いで伸びている。



この歴史的な責任に応じて温暖化を止めていく責任を負えばいいのではないかと途上国は言うわけです。途上国はこれから成長する権利を持っているし、成長するためには化石燃料を使わなければいけない。一方、今までいっぱい使ってきて経済成長を成し遂げ、国民生活水準も高いような国の人たちがこれからのコストを払えばいいのではないですかということを途上国は言うわけです。これも一つもともだなどと思う議論です。

ところが、途上国は何もやらなくともいいのかというと、一番厳しいシナリオの場合先進国は2020年に25%から40%削減しなければならないし、IPCCの報告書には歴史的な責任を持っている先進国だけが減らせば問題が解決するとは書いてなく、途上国も

やれと書いてあるわけです。

さて、そのとき、先進国と途上国がどの程度分担すればいいのかということになるわけですが、実は京都議定書に先進国と途上国をきっちり分ける原則が書いてあります。それは「共通だが差異ある責任」という言葉が英語で明記され、温暖化を止める責任は両方が分かち合う共通の責任であるとなっています。しかし、差がある責任だということで歴史的な責任から先進国が率先垂範してちゃんとやる、途上国はやらなくてもいいのだという原則にとらえられているのです。でも、2050年に先進国が仮にCO₂を100%出さない、つまり、ゼロ・エミッションに取り組んだとしても、途上国はこれから増える分の6割をカットしてもらわないといけない。そういうことで2050年半減という目標を世界共通の目標として合意してしまったら何が起るかというと、先進国がやるだけでなく途上国も義務を負うことになり、これが今の国際交渉をやこしくしている原因なのです。

実は、去年コペンハーゲンで大きな国際会議があったので国際交渉のイメージでお話したいと思うのですが、国際交渉ではこういう文章を取り交わしながら、どんどんみんなで交渉していくわけです。この国際合意、つまりCO₂を減らしていきましょうという合意が出来て、その出来たものを国内的にどう対策をとっていくかというのが、例の排出権取引とか環境税だとか、グリーンITへの支援とかにつながっていくわけですから、非常に重要な国際文書になります。ところがこれまでのG8によるサミット等会議で出ていた「全世界で2050年半減」という文章がコペンハーゲン合意では、中国の反対でどこにも出ていない。なぜかと言うと、中国が合意してしまったら自分たちも削減をやらなくてはいけなくなり、経済成長に足かせを自らはめることになるということでものすごく反対したわけです。京都議定

書というのは、1997年に京都でサインされ、2005年に発効しました。

それで、今、京都議定書の約束期間中になるのですが、2008年から2012年の5年間のCO₂排出量を日本の場合、1990年に比べて6%削減しなければならないとなっています。1990年の生活がどの程度だったか分からないのに、そこから6%削減ですからますますわからなくなっているのが現状です。

話がちょっと飛びますが、2020年に1990年に比べ

て25%削減しようというのが今の鳩山前総理以降の民主党の目標です。この目標を日本の産業界も家庭も平等に分担したとしたら、どのくらい減らさなければならぬかわかりますか。一番最近の数字が2005年ですけど、それに比べて半減です。1990年から十五、六年の間に生活家庭製品等の省エネ化が進みエネルギー効率をはるかに良くなっていると思われるかもしれませんが、いろいろな家電製品が浸透しましたし、ライフスタイルもだいぶ変わりましたので、家庭でのエネ

TOINX

当社は、東北電力企業グループの一員として、
お客さまに信頼されるパートナーとしてご満足いただけるために、
これまで培った技術力と豊富な経験を活かし、
総合的な情報システムサービスをご提供いたします。
これまでも、そしてこれからも。

東北電力企業グループ
東北インフォメーション・システムズ株式会社

トインクス 検索

<http://www.toinx.co.jp>

11820051(06) 11820051(06)
ISO 14001:2004 JQA-QMA10186
ISO 9001:2008 JQA-QMA10186
BS 7864B ISO/IEC 27001:2005 電報センター



ルギーの消費は1990年より4割増えています。よって、1990年から25%減らすということは2005年からは約半分にすることになります。

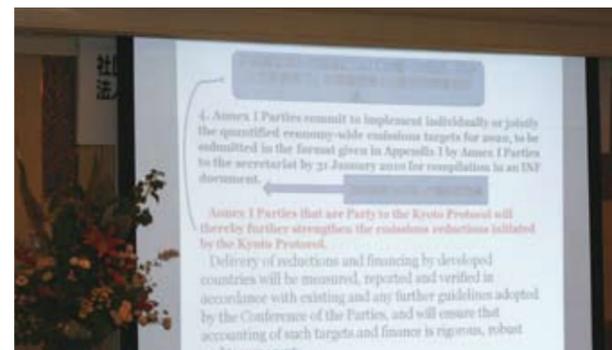
では、半減した状態とは、歴史をさかのぼった場合、家庭生活の中で一体何年先のエネルギーの量だと思ってしまうのでしょうか。ちょっとわかりにくい話ですが、昭和50年、1975年です。

1975年生まれということは今35歳です。生まれたときのエネルギーの使用量がどうだったかイメージできない人がもう日本の若者の大半になっています。1990年比というのは国際交渉のテクニク上の数字であり、どうも実感がわからない、2005年比だと分かりやすい。こうした25%削減についてどれだけ世論の賛成を得ているかという、大体5割が賛成しているという報道がありました。実はこの5割の人がなぜ賛成しているのか、私には不思議で仕方がありませんでした。先程から言っているように、これはものすごく難しい目標で、これを実現できなければ日本は排出権というものを外から買って来て、その法的義務を埋めなければいけないわけです。買うということは日本の税金が外に出ていくわけですし、あるいは企業の収益でそれを買うわけですから、日本の経済に悪影響を及ぼすのは決まっているわけです。にもかかわらず賛成が多い理由は、調査の仕方にもあると思うのです。典型的な賛成の理由と

いうのは、「多分達成不可能だろうけども、そういう高い志を持ってそれに向かって努力していく姿、これが国際的に評価されるだろう」と書いてあります。これは25%削減目標の意味とは全く違うのです。これは努力目標でも、自主目標でもなんでもなく法的義務になる可能性の高いものなのです。つまり、実現は多分無理だろうけど、そう言わせない義務であり、実現できなければ金払えということです。

ヨーロッパは、EU-ETSという皆さんもどこかでお聞きしたかもしれませんが、排出権取引市場というのを国内でやっています。金融業界、特にイギリスのパークレー銀行等固有名詞が出てくるわけですが、彼らが一番狙っているのは日本への売り込みなのです。排出権というのは、EUが今、アフリカとかからかき集め、日本が25%削減目標を法的義務と受け入れた瞬間、売り込みに来るわけで、虎視眈々と向うで備蓄しているわけです。

これはそういうゲームともいえます。しかも何兆円というゲームなのです。排出権取引を自分でやろうと思う人にとって、一番都合のいいことは自分のところの政府、あるいは他の政府でもいいのですが、技術的に絶対達成しえない目標を法的義務として受け入れさせることです。なぜなら、そうなれば、その政府は排出権を購入せざるを得ず、排出権の先物価格がどんどん上がるのが分かっているからです。達成できる目標で



あれば、排出権を購入する必要がなく、排出権の価格が上がらないから個人投資家の勧誘が難しくなります。今、株も為替も乱高下する中、魅力的な金融商品はほとんど皆無に近いですが、排出権というのは約束された金融商品になるわけです。それをかつ確実にさせるためには、今言ったように技術的、物理的に不可能な数字を法的義務にさせることが大事なのです。こうすることで、京都議定書の次の枠組みを巡る国際交渉というのは、実は裏側ではドロドロしたインタレストが渦巻

いていると言えます。

ただ、前段でお話したように日本のCO₂排出量は、たった4%です。4%の国が20%削減しようが25%削減しようが大した問題ではないわけです。もちろん全ての国が削減に貢献することは必要ですが、極端に言えばアメリカが2割、中国が2割、この足して4割の人たちが何をやるかが地球温暖化問題のポイントともいえるのではないのでしょうか。

資産・物品管理システム

MONiSTOR
モニスター

<http://www.tss21.co.jp/monistor/>

棚卸・資産管理を RFID (無線 IC タグ)・バーコードで実現するソフトウェアです。
棚卸や持出・返却管理、利用スケジュールを管理し、企業資産の効率的な循環と有効活用へ導きます。

私たちが提案するトータルソリューションを通じて
お客様の未来を創造するお手伝いをいたします

ONE STOP SOLUTION
株式会社 東北システムズ・サポート

<http://www.tss21.co.jp/>

〒983-0021 仙台市宮城野区田子 1 丁目 3-14 TSS ビル
TEL. 022-259-9804 (代) FAX. 022-259-8222

東北ITソリューション EXPO2010

11/11(木) 10:00~18:00 12(金) 10:00~17:00
会場 アエル5F[多目的ホール]・6F[セミナールーム(1)(2)]



開催主旨

現在、我が国社会経済の基調は、少子高齢化の急速な進行による人口減少社会への転換と成熟型低成長経済への移行、経済のグローバル化の進展など大きく変化してきております。そのような状況の中、昨今の経済環境は、消費刺激策や新興国の需要の伸びに支えられ、大企業の業績回復基調が中小企業にも波及しつつありますが、依然として厳しい状況が続いており、このような時にこそIT技術を活用した企業体質強化の重要性が叫ばれています。

この背景のもとに、地域経済を活性化し、その自立的な発展を実現していくためには地域経済の担い手である地域の中小企業のIT活用を促進し、地域全体として、生産性向上・成長を牽引する産業基盤の整備を図り、企業規模、業種、地域性等多様な環境にある地域企業の実態に即した、きめ細かなIT化(ITを軸とする企業経営、ビジネスモデル、企業間連携等のイノベーション)を持続的に推進できるような地域主導による取組みが求められています。

このような状況において、我々地域IT業界にとっての重要テーマであり期待されているのは、地元業界の企業力・製品をアピールし地域に貢献すること、同時に重要な課題として注目されているクラウドコンピューティング・サービスへの対応及び産学官連携の積極的推進、そしてITソリューション拡大の機運を一層高め、地域経済の活性化に寄与していくことでもあります。同時に今後東北の将来を担う若い学生諸君にICT企業への就職をアピールすることも重要です。

以上の認識のもとに、今年度の「東北ITソリューションEXPO2010」は、「集結!我らの力、ここに在り。」をスローガンに、行政機関並びに関連団体等の後援のもと、広く来場者に提案することを目的として開催するものです。

趣旨にご賛同いただき、多くの皆様の積極的なご参加のもとで、開催されますことを強く希望するものであります。

開催概要

日時 2010年11月11日(木) 10:00~18:00 12日(金) 10:00~17:00
会場 アエル5F多目的ホール・6Fセミナールーム(1)(2)
仙台市青葉区中央1丁目3-1 (JR仙台駅西口から徒歩3分) TEL:022-724-1200
<http://www.sip.city.sendai.jp/netu>

内容 1. 展示ブース/ITベンダー及びメーカーによるソリューション展示
2. プレゼンテーションセミナー/ITベンダー及びメーカーによる、自社製品に関わるセミナー
3. 就職合同ガイダンス(11月11日のみ開催)/企業情報を始め、ITに関わる様々な情報収集の場を提供 2012年新卒、第2新卒、転職者対象

主催 (社)宮城県情報サービス産業協会(MISA)、日本情報振興協同組合(JIA)東北支部
共催 (予定)宮城県中小企業団体中央会、東北情報通信懇談会、(社)組込みシステム技術協会(JASA)
後援 (予定)総務省 東北総合通信局、経済産業省 東北経済産業局、宮城県、仙台市、宮城県高度情報化推進協議会、(財)みやぎ産業振興機構、(社)東北経済連合会、仙台商工会議所、東北地域情報サービス産業懇談会、(社)青森県情報サービス産業協会、岩手県情報サービス産業協会、(社)秋田県情報産業協会、(社)山形県情報産業協会、(一社)福島県情報産業協会、(社)みやぎ工業会、(株)日本政策金融公庫 仙台支店 中小企業事業、仙台銀行、(株)仙台ソフトウェアセンター(NAVIS)、(独)雇用・能力開発機構宮城センター、東北IT産業振興機構、河北新報社

主催者による広報活動

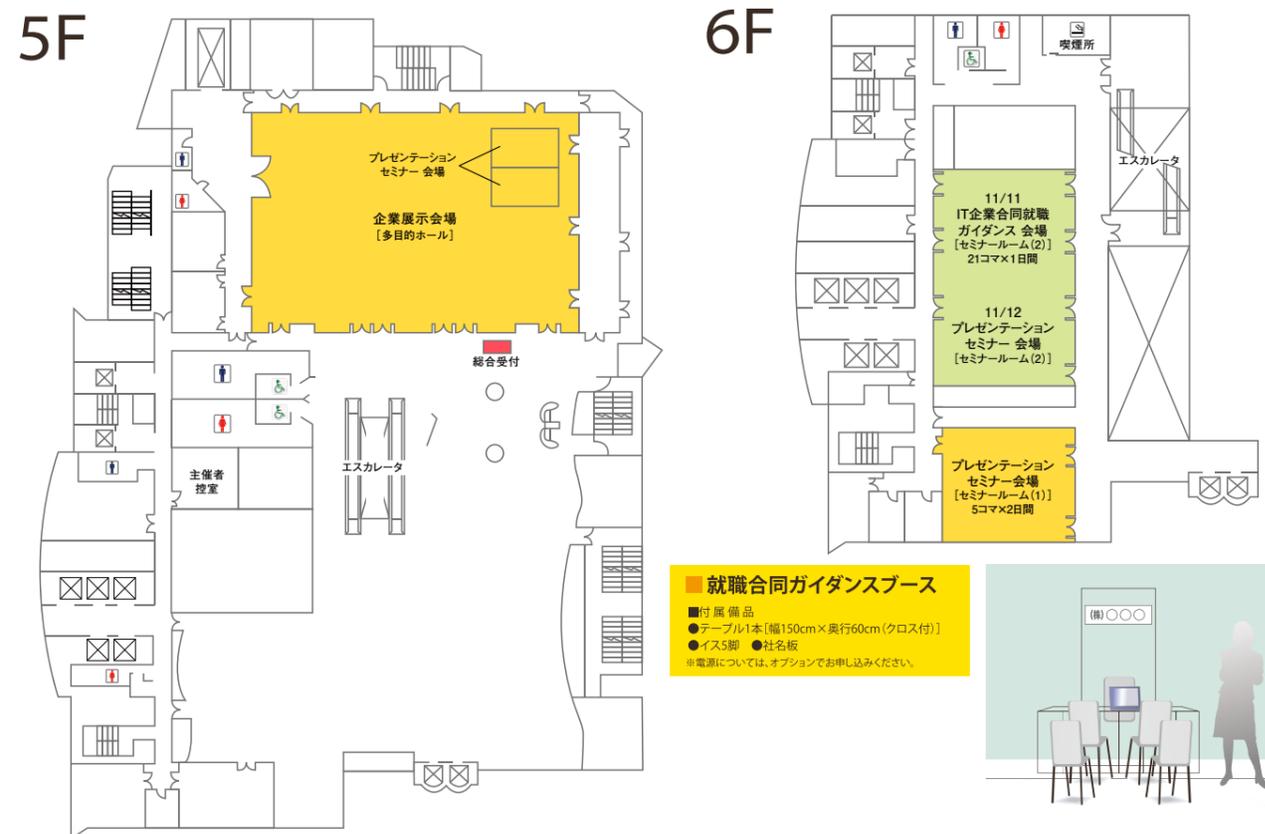
- チラシ20,000部配布 ※後援団体を通じて企業へ告知 ※主催者から大学、専門学校への告知
- 行政、公的機関からのメールマガジン、ニュースによる配信告知
- 主催者ホームページ

受付方法

申込書を下記申込先(フェア共同実行委員会事務局)にFAXまたは、メールにてお送りください。先着順、募集枠定員になり次第締切となりますので、早めにお申込みください。※申込書は、フェアホームページからもダウンロードできます。

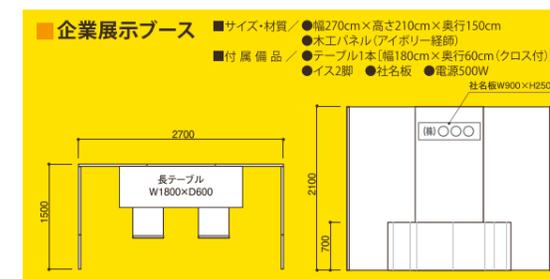
- 申込締切日 2010年8月31日 ※定員になり次第締め切らせて頂きます。
- 申込先・お問合せ フェア共同実行委員会事務局(株)エス・ピー・シー内
宮城県仙台市青葉区一番町1-1-31 山口ビル8F TEL.022-716-2313 FAX.022-716-0867
e-mail tohoku-itfair@sv-c.jp
HP <http://www.tohoku-it-solution-expo.jp>
- 来場予想者数 2,500名

Floor Guide



■就職合同ガイダンスブース
■付属品
●テーブル1本[幅150cm×奥行60cm(クロス付)]
●イス5脚 ●社名板
※電源については、オプションでお申し込みください。

企業展示ブース



募集内容	総募集枠	参画日数	料金(税込)		備考
企業展示ブース	2日間のべ 72コマ	1日参画	会員 31,500円	非会員 52,500円	
		2日間参画	会員 63,000円	非会員 105,000円	
プレゼンテーション セミナー (定員24名)	2日間のべ 40コマ	1コマ参画	会員 21,000円	非会員 31,500円	スケジュール(1コマ45分) 1. 11:00~11:45 2. 13:00~13:45 3. 14:00~14:45 4. 15:00~15:45 5. 16:00~16:45
就職合同ガイダンス (11/11のみ開催)	21コマ	1コマ参画	会員 31,500円	非会員はお申し込み できません	

※企業展示ブース、就職合同ガイダンスの配置、プレゼンテーションセミナーの割当はフェア共同実行委員会にて決定致します。

第2回 Misaliy女性交流会



経営委員会

去る2010年6月9日午後 株式会社富士通東北システムズ様会議室を会場に、第2回Misaliy女性交流会が開催されました。

Misaliy (ミサリー) はMISA経営委員会の中からワークライフバランス分科会として2008年9月17日に発足しました。各会社での女性の働き方について情報交換、仕事上の相談などをする場を提供することを目的としています。

名称のMisaliyは「MISA」と女性らしさを表す「Ribbon」を合わせた「MISA Ribbon」の通称として運営メンバー内で話し合って決めました。

初めは、情報交換の場としてどのような場面が良いのか運営メンバーで検討を重ね、人脈を広げつつ何か勉強できるといいよね!ということから、名刺交換会とミニ研修会のセットの企画が誕生しました。

第1回は2009年11月25日に行われ、30名の定員に対して26社37名の方にご参加頂きました。

名刺交換会の他に、ホシヤインターナショナル株式会社 専務取締役 星山己知郎様を講師に迎え、ミニ珈琲教室を実施しました。

珈琲の種類は多種あっても豆の種類は数種類しかないことや、自分達で実際に珈琲を入れてみて、入れ方が同じでも入れる人によって味が違うなど、沢山の発見があり、初めてあった人同士でも、あっという間に仲良く

なることができました。

そして第2回目が6月9日に開催され、21社30名の方にご参加頂きました。

名刺交換会の他に、元アナウンサーの矢野加代子先生をお迎えして「感じのよい話し方」をテーマに女性らしい話し方を教えて頂きました。

相手に好意を持って心を込めて話すことなど改めて話し方について考えるよい機会になりました。お口の体操や感情を込めて話す練習など、実際に声に出して行うことも皆さん大きな声で積極的に取り組まれました。

感じの良い話し方というテーマと同時に女性ならではの気遣いやマナーも一緒に教えて頂き参加者の皆さんから時間があっという間だったというご意見が沢山聞かれました。

アンケートの結果では2回とも97%の方が満足しておられます。

女性が少ない職場の方も多業界です。女性だけの空間にいただけでもうれしかった。という声は毎回聞かれます。

第3回は秋(10月)に開催予定です。女性のネットワークを広げ、スキルアップもできるMisaliyにあなたも参加してみませんか?そして一緒にいるいるなことにチャレンジしましょう!次はどんな出会いがあるのか楽しみです。



平成22年度第1回MISA会長杯 フットサル大会の開催

福利厚生委員会
(株) デジタルメディア研究所 後藤 陽佑
去る6月12日(土) 南中山のリベラにて、『第1回MISA会長杯フットサル大会』を開催致しました。

前年度までは同好会として不定期開催をしておりましたが、今年度からは福利厚生委員会の事業として行なうことになり、参加チーム12社・総勢120名の方に参加いただき、スケールアップした内容となりました。

大会は回数を重ねるごとにレベルが上がっており、今回も最後までどのチームが勝ち上がっていくのか、予選・決勝を通して見ごたえのある好ゲームが多かったと思います。

次回開催は出場枠を16チームに増やし11月13日(土)を予定しておりますので、多くの企業様からのエントリーをお待ちいたします。

【成績】

優勝 東北インフォメーション・システムズ株式会社
(初回の同好会から3連覇)

準優勝 東北NSソリューションズ株式会社
(初参加での栄冠)

第3位 株式会社デジタルメディア研究所



MISAカレイ釣り大会 in大型漁礁(2010夏)

福利厚生委員会
トリアロー (株) 高野 慎也
7月24日(土) 真夏のカレイ釣り大会in大型漁礁を開催しました(船は写真の後ろにある立派なもの)。

今回の参加者22名は、塩釜港より乗船し、仙台港の沖合(船で1時間程度)にある漁場に向かいました。当日は快晴、真夏の炎天下での釣行となりました。前年度同時期の釣果では、多い人で一人カレイ100枚ということでしたので、移動中の船内では皆さん大いに期待されていたと思います。

さて、魚場に着くと、船頭さんの「はじめてください」の合図で一斉に餌(アオイソメ)を付け、仕掛けを下ろしました。しばらくすると、あちらこちらで手のひらサイズのマガレイが釣れています。今回は船釣り初心者も多く、その内の何名かは船酔いのため釣りを中断し、しばしば休憩モード、後半はその方々も元気になり、ダブル、トリプルとカレイ釣りを楽しんでいたようでした。船頭さんの「おわりです」の合図で終了となり、港に戻り記念撮影をしました。今回は、多い人でカレイ50枚程度だったと思います。

釣り船の近くには、同じような船が沢山操業していました。仙台湾沖の大型漁礁のカレイ釣りは全国的にも有名で、東北随一のマガレイのメッカとして知られているのも納得できます。



新入会員紹介 (平成22年4月1日以降)

正会員-入会 賛助会員-入会
会員数 (正会員・・・151社 賛助会員・・・25社)

入会日	会員名 (代表者名)	住 所 TEL・FAX
4月1日	(株)アセンディア (代表取締役社長 酒井 秀夫)	〒980-0013 仙台市青葉区花京院1-1-5 タカノボル第25ビル5F TEL 022-399-8781 FAX 022-399-8782
4月1日	フィット産業(株)仙台営業所 (営業所長 本多 和浩)	〒980-0014 仙台市青葉区本町2-9-5 コア本町ビル TEL 022-268-3015 FAX 022-268-3016
4月1日	デジタルアーツ(株)東北営業所 (所長 高山 伸悦)	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-1-1 三井生命仙台本町ビル10F TEL 022-713-7481 FAX 022-713-7482
4月1日	首都圏コンピュータ技術者(株)東北営業所 (所長 猪又 正明)	〒980-0021 仙台市青葉区中央3-4-12 COI仙台中央ビル TEL 022-355-6901 FAX 022-355-6902
4月1日	(株)エム・エス・シー (代表取締役 山口 芳廣)	〒989-3124 仙台市青葉区上愛子字蛇台原37-8 TEL 022-391-8626 FAX 022-290-6226
4月1日	(株)TOUA仙台営業所 (代表取締役 藤原 伸明)	〒980-0022 仙台市青葉区五橋1-1-58 ダイアパレス仙台中央212 TEL 022-738-9499 FAX 022-738-9498
4月1日	(株)エスマネジメントオフィス (代表取締役 尾形 進)	〒983-0021 仙台市宮城野区田子1-15-13 TEL 022-259-2506 FAX 022-259-2601
4月1日	キューアンドエー(株) (代表取締役 金川 裕一)	〒980-6010 仙台市青葉区中央4-6-1 SS30 10F TEL 022-212-6221 FAX 022-221-8931

皆で飾ろう！MISA情報誌！

MISA情報誌の表紙を飾る、写真を会員の皆様から募集します。

情報誌は初春・初秋の年2回発行の予定です。「撮っておき」の写真をお待ち致しております。

募集要項

- ・募集テーマ：「季節感あふれる東北の風景」、街並み、祭り、イベントなど。
- ・作品サイズ：キャビネ版サイズのプリントまたは、

600万画素以上のデジタルカメラでフルサイズで撮影、必ずカラープリントまたは、コピーを添付して下さい。

- ・応募締切日：随時。
- ・審査方法：事務局・企画・広報委員会メンバーの投票で決定。
- ・発表：事務局から本人へ直接ご連絡いたします。
- ・謝礼：5,000円相当の商品券。

編集後記

私たちにとっては大きな問題となります法人税率の引き下げと言う話があります。企業にとっては望ましい事かも知れません。

これにより投資 - 成長 - 失業率の低下という好循環を生み出す可能性はあるかも。でも簡単に数式の様には行かないのがこの世の仕組みだと思います。時代の変遷と共に変革していく事は大切の様になります。それは取りも直さず企業にもMISAにも言える事かも知れませぬ。

話はかわりますが日本企業の底力に驚嘆です。

皆さんも既にご存じの通り小惑星探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワまで往復50億キロメートルにおよんだ旅を終えて地球に帰還しました。

「はやぶさ」は2003年5月9日に打ち上げられ、地球から太陽までの距離の倍以上も彼方にある全長540メートルほどの小惑星「イトカワ」を目指し、数々のトラブルに見舞われながらも2005年9月に「イトカワ」に着陸して岩石採取し、「はやぶさ」の帰還とともにオーストラリアに投下されました。これって、ものすごい出来事です。これほどの制御技術が日本にあると言う事。私たちが英知を出し合いながら「はやぶさ」に負けない様に企業を目的地まで飛ばして軟着地をさせたいものです。

最後に情報誌発行にあたりご協力を頂きました皆さまにお礼申し上げます。(我妻)